

**令和6年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティア養成研修**

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、施設ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

2. 事業の概要

（1）期日

令和6年5月25日（土）～5月26日（日）1泊2日

（2）参加者

①募集対象・人数

高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人 50人

②参加人数

16人（高校生4人、大学生12人）

（3）講師等

講義「青少年教育における体験活動」

講師：室 貴由輝 氏（岡山県教育庁 学校教育推進監
一般社団法人 やかげ小中高こども連合 共同代表）

講義・演習「自然体験活動の安全管理」

講師：消防署職員（岡山市西消防署吉備中央町出張所）

説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」

報告：法人ボランティア2人（国立吉備青少年自然の家）

講義・演習「ボランティア活動の技術」

講師：河本 潤（国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職）

講義「ボランティア活動の意義」

講師：藤本 昌克（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

講義「青少年教育施設の現状と運営」

講師：妹尾 剛（国立吉備青少年自然の家 所長）

説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」

説明：八木 雄治（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

(4) 企画・運営のポイント

- ① 開催については、「興味を持った高校生が多くいたがテスト期間中のために参加できなかった」という昨年度の反省を生かし、1週間遅く開催時期を設定した。
- ② 直接広報を行う際にはより具体的なイメージを持ちやすくするために、職員だけでなく法人ボランティアの大学生と共に説明を行った。
- ③ 講義内容をアクティブラーニングを取り入れたものにするこで、参加者がより主体的に学ぶことができるようにした。

3. 活動の内容等

(1) 日程

5月25日(土)		5月26日(日)	
9:15	受付	6:30	起床・洗面・清掃
9:45	開講式	7:15	朝のつどい
10:00	講義 「青少年教育における体験活動」	7:30	朝食
11:30	アイスブレイク①	9:00	講義・演習 「ボランティア活動の技術」
12:00	昼食	13:00	講義 「ボランティア活動の意義」
13:00	アイスブレイク②	14:45	講義 「青少年教育施設の現状と運営」
14:00	講義・演習 「自然体験活動の安全管理」	15:45	説明 「青少年教育施設におけるボランティア活動」
17:15	夕べのつどい	16:45	閉講式
17:30	夕食		
18:30	説明 「青少年教育施設におけるボランティア活動」		
19:30	入浴・休憩		
20:30	情報交換会		
22:00	就寝		

(2) 活動の状況



【講義「青少年教育における体験活動」】



【アイスブレイク】



【講義・演習「自然体験活動の安全管理」】



【説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」】



【講義・演習「ボランティア活動の技術」】



【講義「ボランティア活動の意義」】



【講義「青少年教育施設の現状と運営」】



【説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：：81% やや満足：19%

(2) 参加者の声

- ① みんなで協力して一つのことをやるのがとても楽しかったし、連携をとるためのコミュニケーションの大切さを感じた。
- ② 何かを実践する際に重要なことは「体験学習サイクル」に基づいて進めていくと設定した目標に手が届くようになると思った。
- ③ 短い時間でもみんなと仲良くでき、かけがえのないボランティア仲間ができた。
- ④ ボランティアとして、今後は青少年教育にかかわっていきたいと思った。

(3) 成果

- ① 吉備ボランティア養成研修と高校のテスト期間をずらすことで、昨年度よりも多くの高校生が参加することができた。
- ② 直接広報の際、職員だけでなく先輩ボランティアの体験を聞いて興味をもち、申込みをした参加者がいた。
- ③ 座学、ラベルワークを取り入れたグループ学習や体験型の演習と様々な形式の講義にしたことで、参加者にとっての学びが深まった。さらに、講義の中で活動を共にすることで人間関係が良好になり、一体感が生まれて一層意欲的に学ぶことができるという好循環が見られた。

(4) 今後の課題

- ① 直接広報を行っていた大学の一つで、講義の中で広報を行っていたが、その講義の時期が変わっていた。例年、多くの申込みがあった大学であったので、代わりの講義で広報をさせてもらえないか検討したい。
- ② 多くの参加者が新規で法人ボランティアに登録し、教育事業に参加したいと意欲的になっている。しかし、今年度の教育事業の減少により法人ボランティアが活躍する機会が保証されていないことに対して対策をする必要がある。

担当：企画指導専門職 八木 雄治